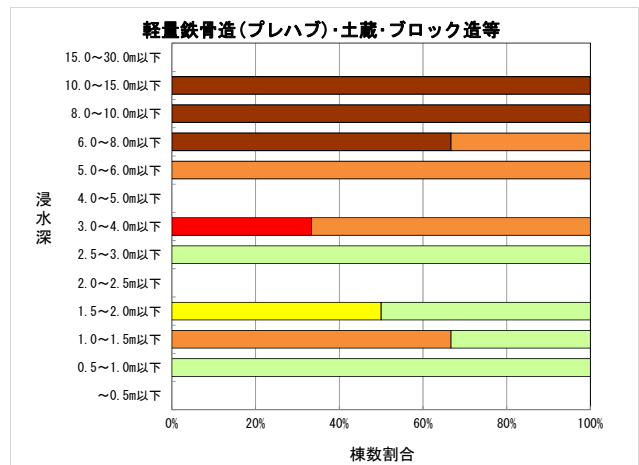
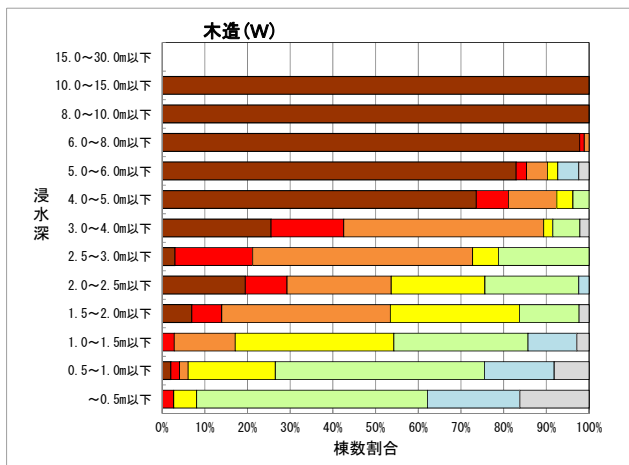
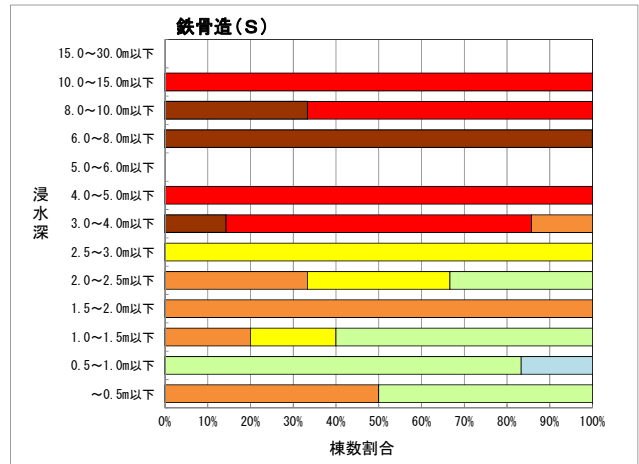
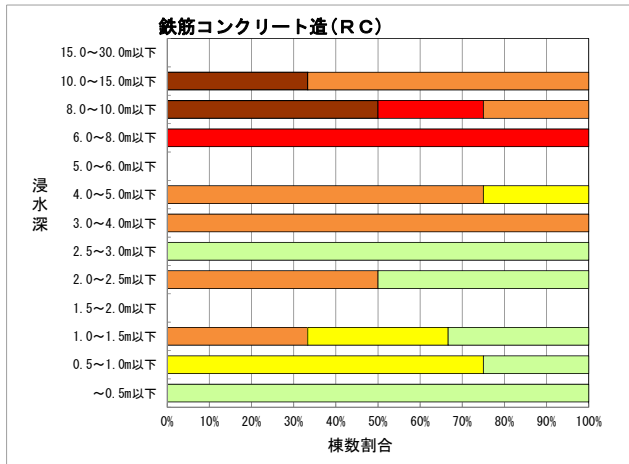


2. 建物構造別の浸水深と建物被災状況の関係

浸水区域における浸水深と建物被災状況の関係を建物の構造別に整理した結果は下記の通り※。



- 凡例
- 全壊(流失)
 - 全壊
 - 全壊(1階天井以上浸水)
 - 大規模半壊
 - 半壊(床上浸水)
 - 一部損壊(床下浸水)
 - 被災なし

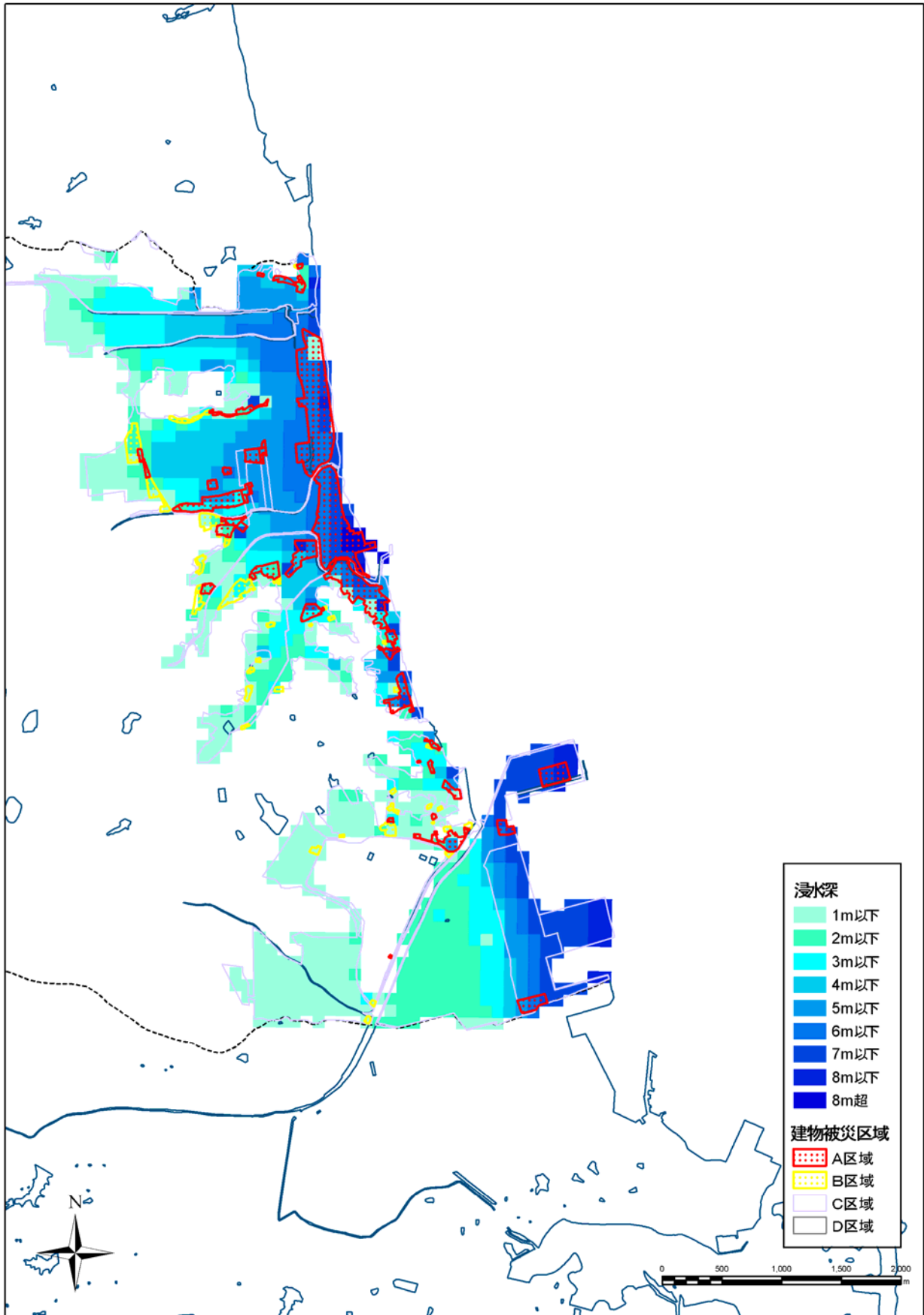
※被災現況調査では、現地調査等に基づき、被災した建物を「全壊(流失)」「全壊」「全壊(1階天井以上浸水)」「大規模半壊」「半壊(床上浸水)」「一部損壊(床下浸水)」に6区分している。区分の判定は原則として目視調査による。

※浸水深と建物被災状況の関係分析においては、浸水深 0.0m や浸水深不明等における被災建物は対象から除いている。

※個々の建物の浸水深は基本的には100mメッシュ単位で把握している。なお、国土地理院により災害復興計画基図が整備されている地区等においては、地形を加味した精査を行い、個々の建物の浸水深を5mメッシュ単位で把握している。

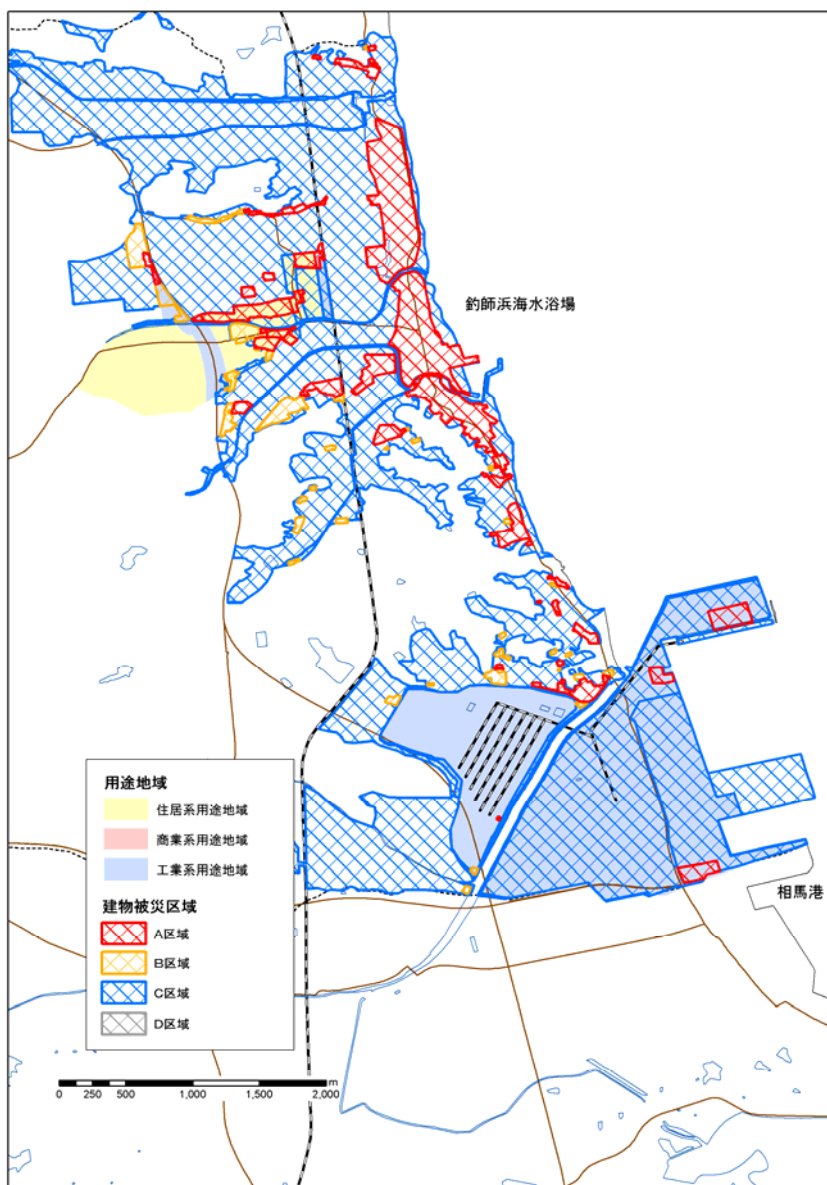
■新地町

○浸水深と建物被災区域の関係

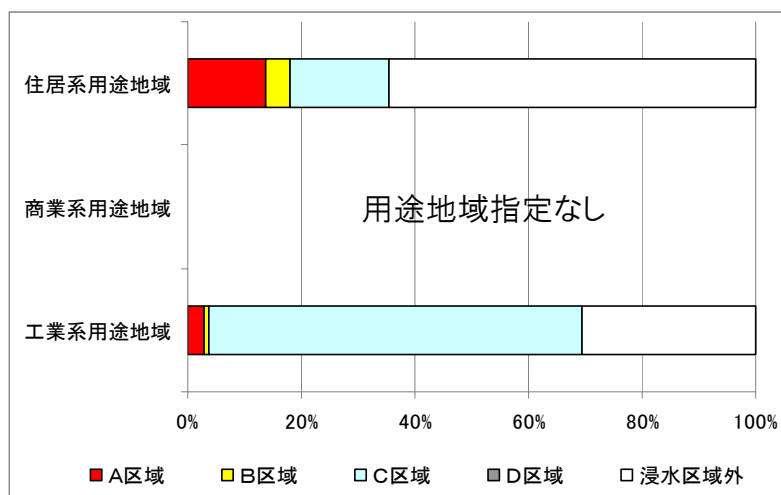


■新地町

○用途地域と建物被災区域



○用途地域別の被災状況区別面積割合



※住居系用途地域：第一(二)種低層(中高層)住居
 専用地域、第一(二)種住居地域、準住居地域
 商業系用途地域：近隣商業地域、商業地域
 工業系用途地域：準工業地域、工業地域、工業専
 用地域